

## 令和4年度 西陵中ブロック小・中連携研修会実施報告(まとめ)

### 1 研修会当日について

本年度の研究主題及びサブテーマを「小・中連携を通じた『生きる力』の育成 ～確かな学力の育成と生徒指導の充実を目指して」として、令和4年6月20日(月)に研修会を実施した。

当日は、まず、令和2・3年度鹿児島市研究協力校(生徒指導)として西陵中学校で取り組まれた実践内容と研究のまとめに関する報告が行われた(全体会Ⅰ)。

次に、「学習指導部会」「生活指導部会」「特別支援教育部会」「中1部会」の4つに分かれ、分科会を行った。分科会では、各校の現状や実態に応じた取組や課題などの情報交換、話し合いが行われた。

最後に、各分科会の報告を聞いて共通理解、共有を図った(全体会Ⅱ)。

### 2 各分科会について(参加者の感想)

#### (1) 学習指導部会

- 各校の共通実践事項はほぼ同じということに安心感をもつとともに、学力差について考えていきたい。
- 授業の進め方・約束事が3校ともほぼ同じであり、1時間1時間しっかり守っていかねばと改めて思うことだった。
- ICTの環境が小学校と中学校で差があることに驚いた。
- ICTの現状について知り、もっと使いたい、使い方を工夫したいと思った。モラルについても指導できるようにしたい。
- ICTにおいて、小学校でできるようになったことを中学校でより使えるようにしていきたい。

#### (2) 生活指導部会

- 不登校とSNS利用とのつながりを感じた。また、保護者との連携の難しさを感じた。
- SNSトラブルが実際に起こっていることを知って驚いた。生活の乱れは保護者と連携をとる必要があるということが分かった。
- 出口を意識した指導が課題となる以上、社会全体の意識を変えていく必要があり、小・中学校の指導や校則の見直しだけでは限界があるように感じた。

#### (3) 特別支援教育部会

- 同じような課題を各学校もっており、解決策もなかなか厳しい状況であることが分かった。また、児童生徒の進路先の話も聞き、少しでも力をつけて、次の学年に上られるよう力を尽くしたと思った。
- 中学校は進路指導が大変だと思う。手帳の取得の大切さを感じた。

#### (4) 中1部会

- 気になる生徒について個々のの情報を知ることができた。
- 心配だった児童のことが分かってよかった部分があったり、さらに心配になる部分があったり…。
- 担任不在のため、小学校でのことを話せなかったのが申し訳なかった。事前に、「この子のことが知りたい」と教えていただければ準備できる。
- 個人の様子を教えていただき、ありがたかった。こういった機会は年に1回では少ないと思う。あともう一度あるとありがたい。
- 少し時間が足りないと感じた。

### 3 成果と課題

各校の現状や課題を知ることができたり、情報交換をしたりすることができた良い機会とはなった。ただ、今年度も感染症対策を考慮しなければならなかったとはいえ、わずかな時間設定では報告のみとなってしまった感があり、課題について十分議論するまでにはいたらなかったように感じる。大変貴重であり、必要な研修会である。たとえ短時間であっても、小・中連携という視点でより焦点化した議論ができるよう工夫改善をしていくとともに、さらに深まりのある研修となるよう検討していく必要がある。